



ようび 曜日はだれが決めたの

ようび なまえ ほし かんさつ 曜日の名前は、星を観察してつけた

ようび げつ か すいもくきん どにち なまえ ぜんぶ ほし なまえ
曜日には、月火水木金土日という名前がついていますね。これは、全部、星の名前なので
す。つまり、曜日というのは、おおむかしひと ほし かんさつ
大昔の人たちが星を観察してつけたものなのです。

よぞらには、とてもたくさんのほしがありますが、このなかで7つのほしえらばれた理由は、この
7つのほしたちは、すこしかうごきをするからでした。

せいざ ほし いちい せいざ かたち が
星座の星は、おたがいの位置が入れかわって、星座の形が変わったりすることはありません。
ところが、かせい すいせい もくせい きんせい どせい ほし せいざ なか よこぎ
火星、水星、木星、金星、土星の5つの星は、星座の中を横切っていくの
です。おおむかしひと うごき み ほし かみさま す しん
大昔の人は、この動きを見て、この5つの星には神様が住んでいると信じていたの
です。たいよう つき ほし
太陽と月の2つの星については、この2つは大きさもまったくちがっていて、やはり、
どくとく うごき ほし かみさま す しん
独特の動きをすることから、この星にも神様が住んでいると信じていたのです。これで、7
つのほし
星がそろいました。

にん かみさま じかん しはい かんが 7人の神様が時間を支配すると考えた

ごご じ どせい かみさま ごご じ もくせい かみさま ごご じ かせい かみさま
午後1時は土星の神様、午後2時は木星の神様、午後3時は火星の神様となるわけです。
じゅんばん つぎ ひ ごぜん じ たいよう かみさま じかん
この順番にいくと、次の日の午前1時は太陽の神様の時間になるのです。

こうして、じゅん じかんをあてはめていって、ごぜん じ しはい かみさま じゅんばん
こうして、どせい たいよう にち つき かせい すいせい もくせい きんせい じゅん
と、土星、太陽(日)、月、火星、水星、木星、金星という順にならびました。こうし
て、いまおなようび
て、今と同じ曜日のならびかたができたというわけなのです。(監修・田代 脩)

